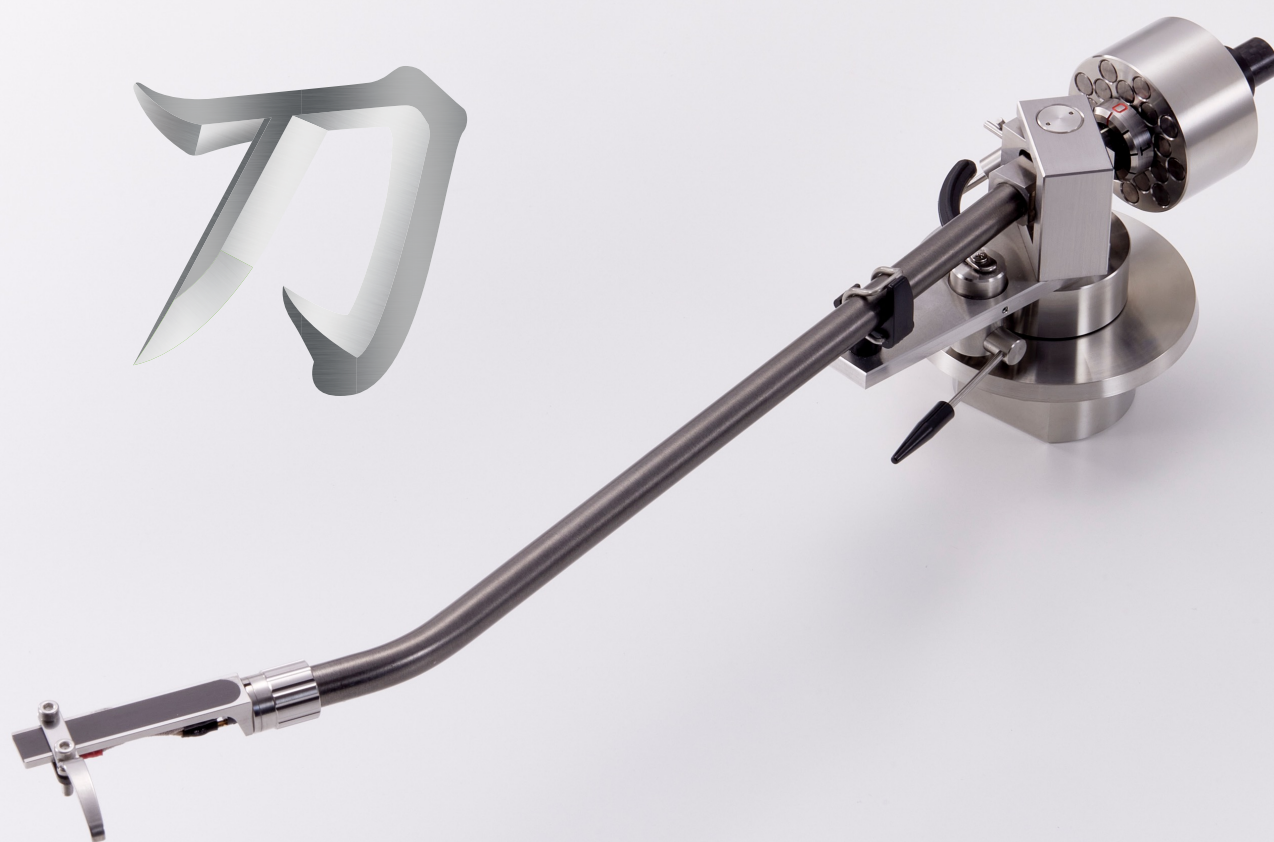


GLANZLAB



取扱説明書

Premium タイプ

MH-12KATANA

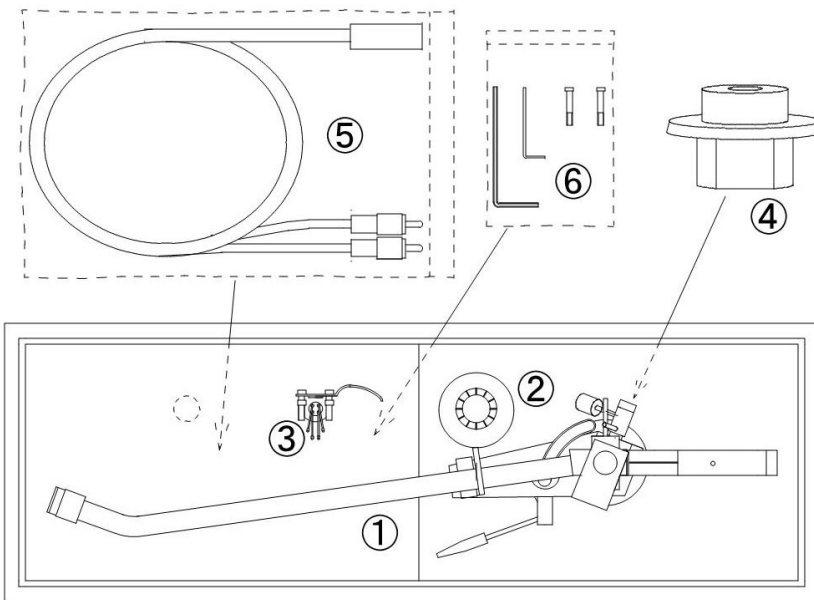
2026.6版

この度は、弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
 かつて、アナログオーディオ全盛の時代に一世を風靡したブランドネームを背負って登場した本製品には、最高のレコード再生を目指して永年グラantzを育て上げた熟練の技術者の熱き情熱と全技量が遺憾なく込められています。そのポテンシャルを余すところなく発揮させ、ご堪能いただけたらと切に願います。

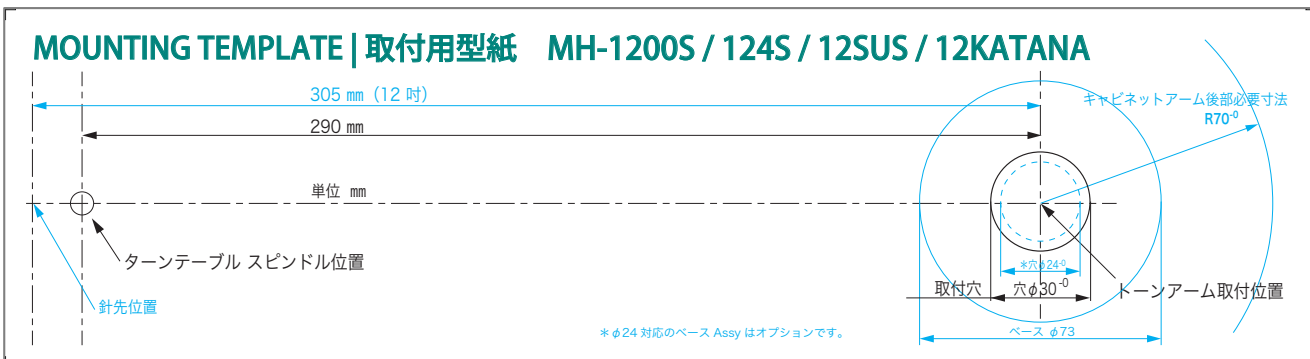
本機によるレコード再生をお楽しみいただくため、本取扱説明書を事前にご精読の上、正しくセッティングいただき、理想的な環境でお楽しみいただくようお願い申し上げます。

製品には下記の物が入っています。開封時にご確認をお願いします。

- ① トーンアーム本体
- ② ウェイトASSY (搬送時には衝撃からアームを守る為はずして下さい)
- ③ ヘッドシェル (フィンガー、リード線4本、ビス・ナットφ2.6×12mm 2本)
- ④ 取付ベース
- ⑤ 出力コード
- ⑥ 小物袋 (六角レンチ2mm、4mm、カートリッジ取付ネジφ2.6×16mm 2本)
- ⑦ 取付用型紙 (ターンテーブル取付用型紙)
- ⑧ 取扱説明書・保証書 (本書)
- ⑨ 案内書



⑦ 取付用型紙



株式会社GLANZLAB

本社・ラボ：静岡県沼津市大岡788-5 〒410-0022
 TEL 055-963-8712 FAX 055-963-8758
 東京営業所：東京都文京区湯島3-6-1 全国家電会館3F 〒113-0034
 TEL 03-5834-3680 MAIL info@glanz1.com

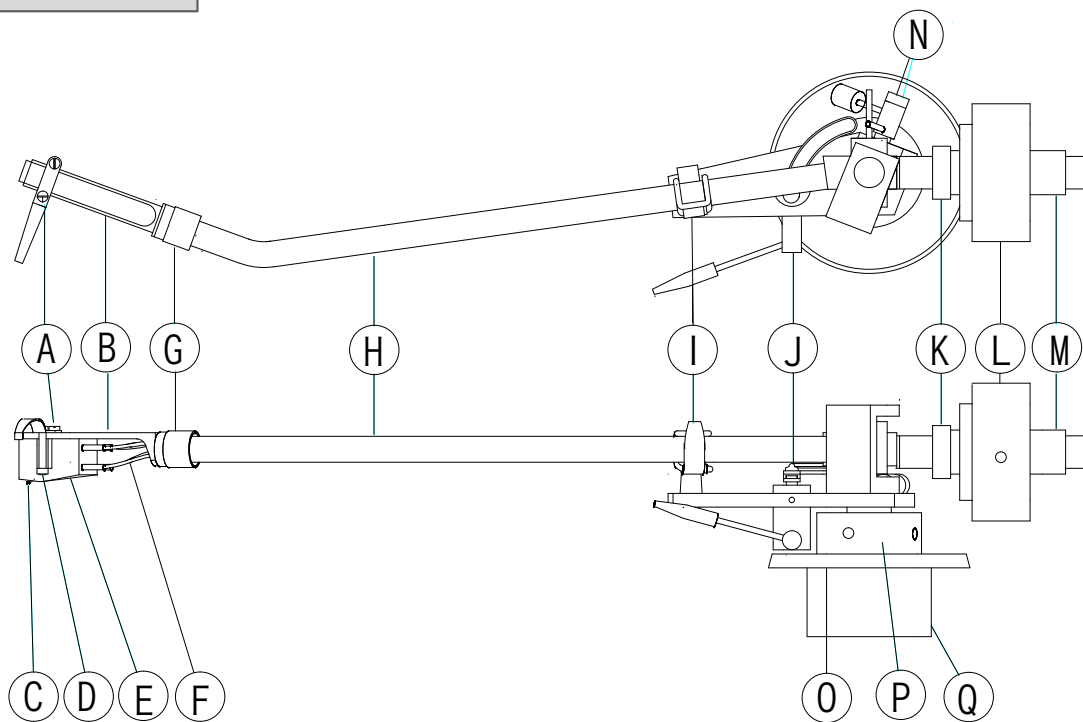
<https://glanz1.com/>

仕様

| | | MH-12KATANA |
|----|--------------------------|-------------------------|
| 1 | 型式 | スタティックバランス方式 |
| 2 | 全長 (ヘッドシェル含まず) | 330mm |
| 3 | 実効長 (アームの支点～針先) | 305mm |
| 4 | 有効長 (アームの支点～ターンテーブル軸の中心) | 290mm |
| 5 | オフセットアングル | 20° |
| 6 | 適応カートリッジ (ヘッドシェル含む) | 13~44g |
| 7 | 質量 | 1.2kg |
| 8 | オーバーハング | 15mm |
| 9 | 針圧調整範囲 (直読) | 最小目盛0.5g (1周で5g・2周で10g) |
| 10 | 高さ調整範囲 (アームパイプ中心まで) | 41~70mm |
| 11 | ヘッドシェル質量 | 12g (リード線・ネジ含む) |
| 12 | 取付けベース内寸法 | Φ16mm |
| 13 | 取付け穴 | Φ30mm |
| 14 | 取付けボード厚 | ~t20mm |

★本機の仕様は予告なく変更することがあります。

各部の名称

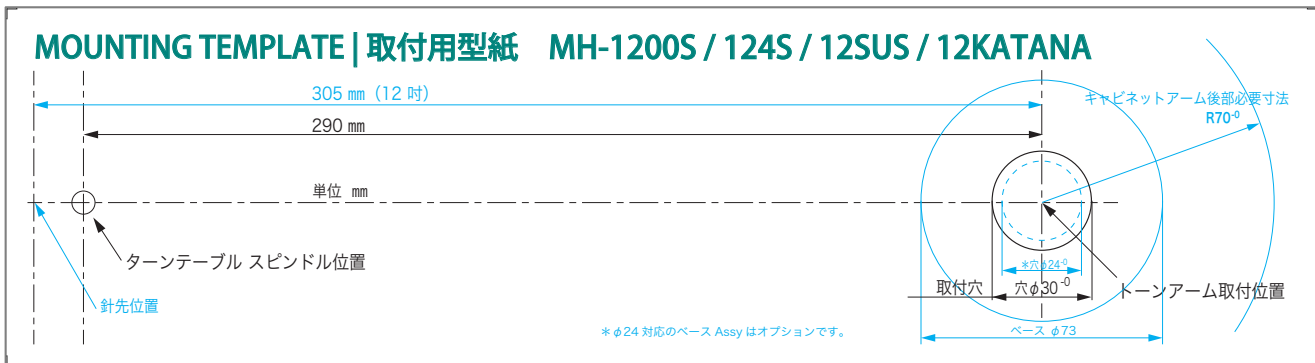


- ① フィンガー
- ② ヘッドシェル
- ③ レコード針
- ④ カートリッジ取付ナット
- ⑤ カートリッジ
- ⑥ ヘッドシェルリード線
- ⑦ ヘッドシェル着脱ロックナット
- ⑧ アームパイプ
- ⑨ アームレスト
- ⑩ アームリフター
- ⑪ 針圧目盛リング
- ⑫ ウェイト
- ⑬ 針圧調整スリーブ
- ⑭ インサイドフォースキャンセラー
- ⑮ アームベースプレート
- ⑯ アームベース
- ⑰ アームベース取付ナット

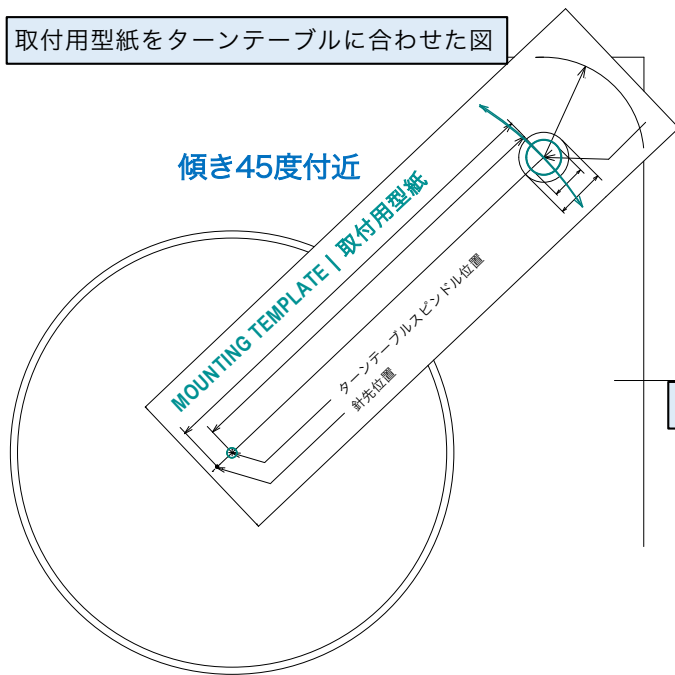
1 トーンアームの取付け

1. 製品に同封されている取付用型紙を使ってトーンアーム支点（取付ネジ部）の穴開け位置を決めます。
2. 取付用型紙左隅の「ターンテーブルスピンドル位置」と示した穴（ $\phi 7\text{mm}$ ）に、レコードを置くターンテーブル中心軸（スピンドル）を差し込みます。
3. ベース取付穴位置はシートを回し上から見て45度付近に決めます。
4. ターンテーブルの中心軸から穴径までの長さは、12吋(MH-1200S) | 290mmです。

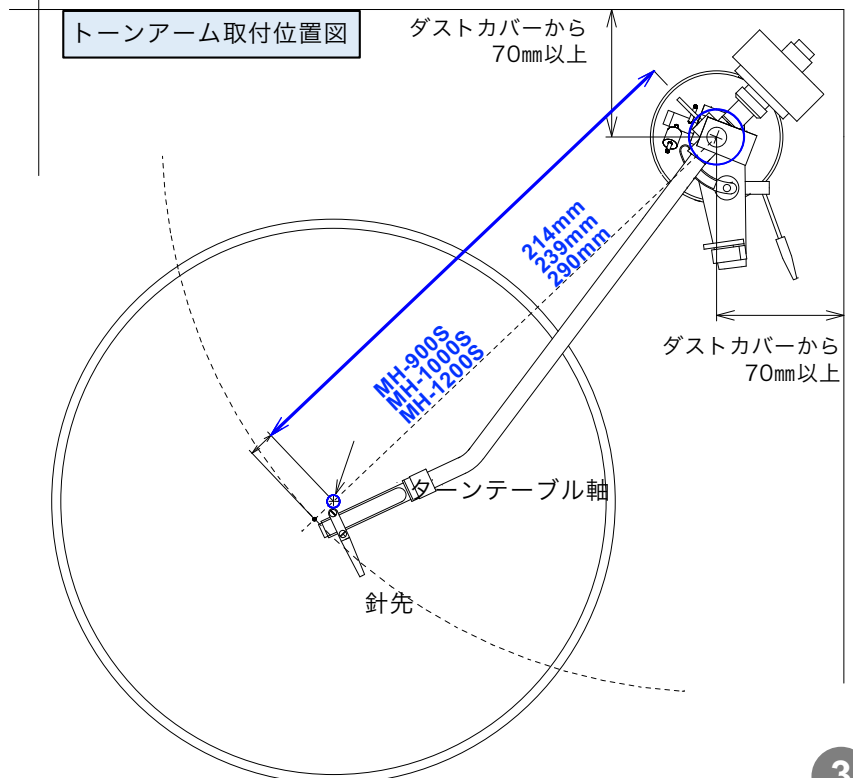
取付用型紙図



取付用型紙をターンテーブルに合わせた図



トーンアーム取付位置図

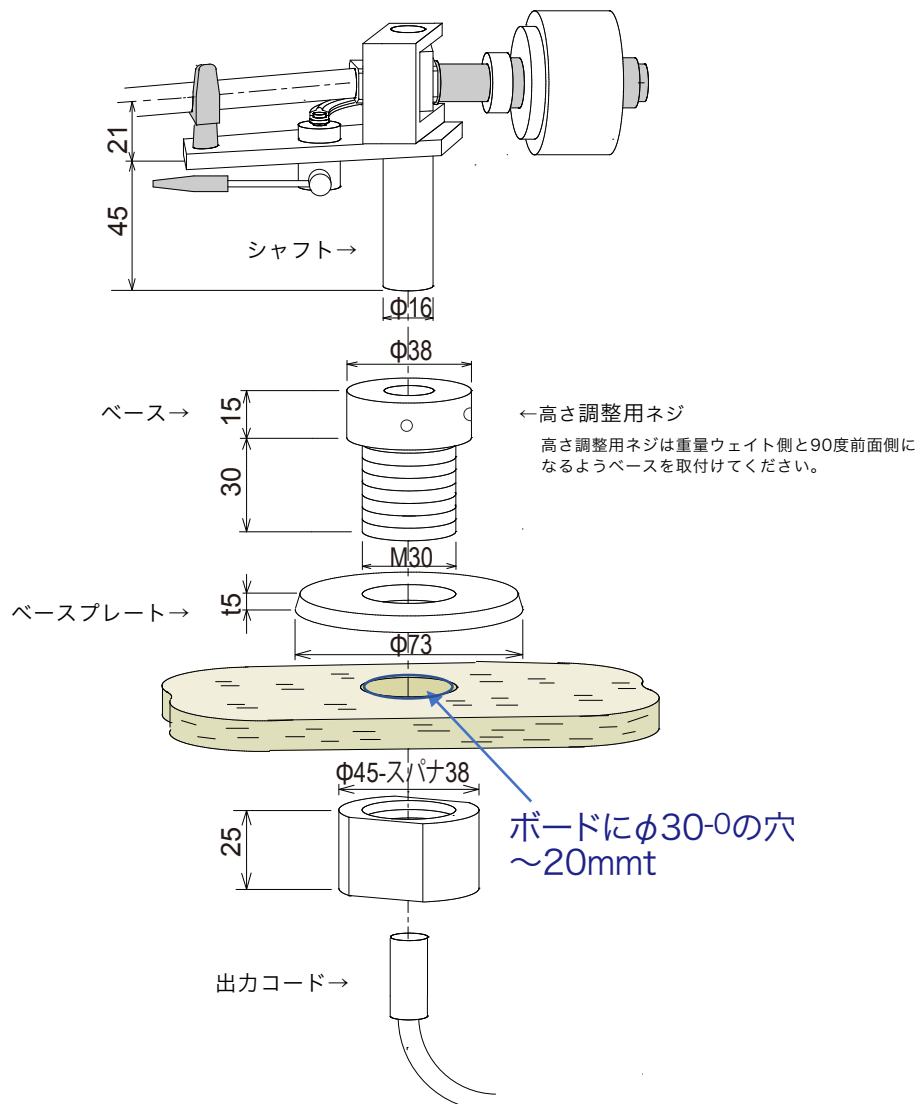


2

トーンアームの取付け

1. ウェイトの後部がダストカバー（ダストカバー付きの場合）に当たらないように、ダストカバー端から縦横とも70mm以上あることをご確認ください。（ダストカバーが無い場合には端からの縦横サイズは気にしなくても大丈夫です）
2. ベース取付ナットが周囲に当たらないか、ナットが締まるか、出力コードが周囲に当たらないかご注意ください。
 (1)取付ナットが周囲に当たる場合は、ベース及びナットが細い穴径φ24用のオプションベースがあります [MH-244S]。※φ24オプションベースのナットでも周囲に当たる場合は、ナットを使用せずφ73のプレートにドリルで穴を開け、木ネジ止もできます。木ネジの穴の位置は、内径ギリギリですとベースを締めた時に木ネジに当りますのでご注意ください。
 (2)取付ボードが厚くネジの長さが足りずナットが締まらない場合は、ロングのオプションベースをご検討ください [MH-304LS]。オプションベースの詳細寸法は、下図面をご参照ください。
3. トーンアームの水平可動範囲がレコードの内周まであるか、トーンアームが使い勝手の良い範囲で稼動するかをご確認ください。
4. ベースの取付ナットを占める際にはトーンアームに力が掛からないようにしてください（ベースを取り付けた後にトーンアームを付けてください）。
5. 取付プレートに取り付ける方は当社専用のオプションプレート（案内書のオプション部品をご参照）をお使いください。

トーンアーム断面図

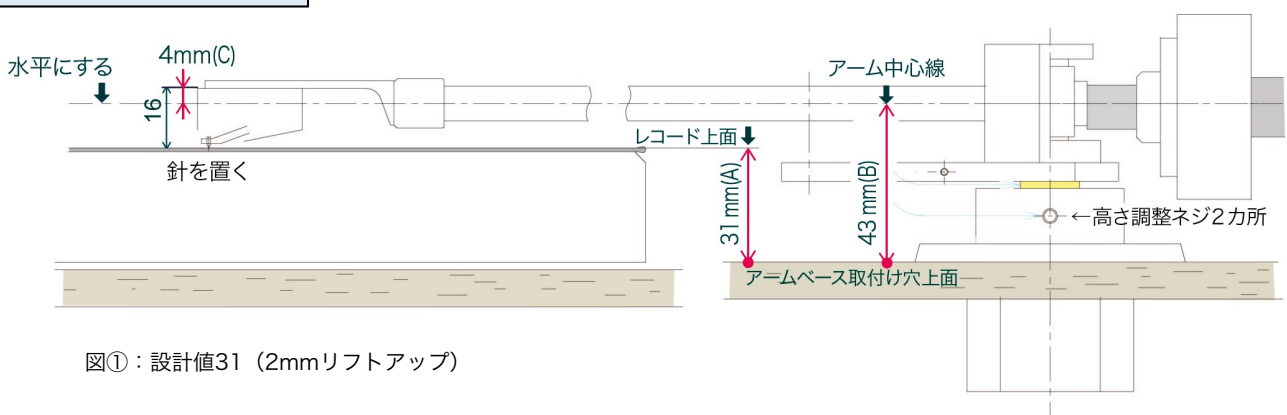


3

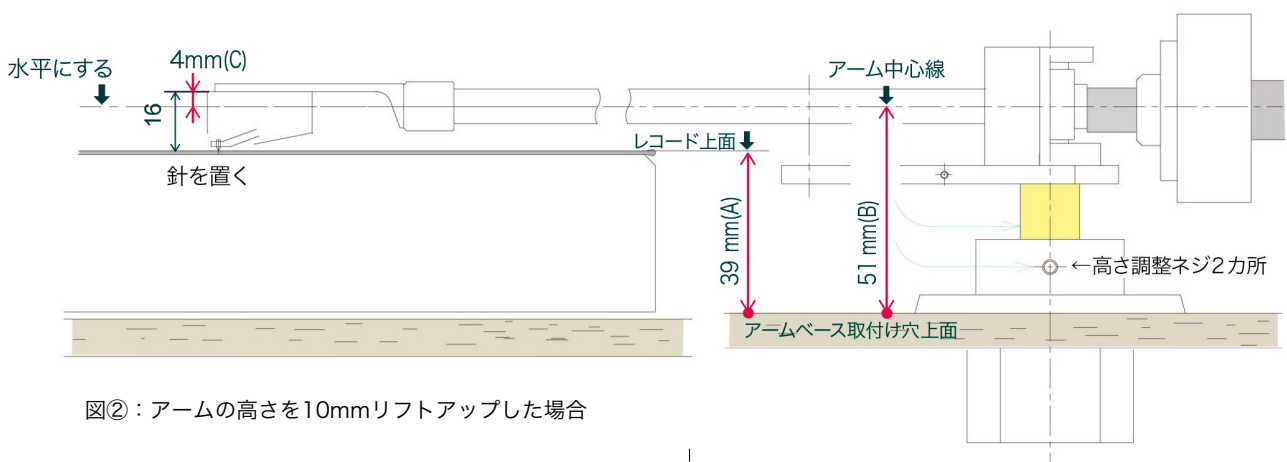
トーンアームの高さ調整

- トーンアームの高さは、レコードの上にカートリッジの針を置いた時に、アームパイプが水平になるように調整します。
- 高さ寸法確認
 (1)カートリッジの高さは各社まちまちですが、高さの平均値16mmのカートリッジを取り付ける場合、高さが低いカートリッジを取り付けるための余裕を取り、リフトを2mm上げ、ベース取り付け穴上面からアームパイプの中心線までの寸法を、43mm (図① (B)参照) にします。
 (2)カートリッジのヘッドシェル取り付け面からトーンアームパイプ中心までは4mm (図① (C)参照) 、高さが16mmのカートリッジを取り付けた場合、 $43 - (16 - 4) = 31\text{mm}$ となり、ベース取付穴上面からレコード上面までの寸法は31mm (図①(A)参照) 、弊社トーンアームはこの31mmを設計値としています。
 (3)なお16mmより高さの低いカートリッジ、例えば14 mmのカートリッジを取り付けた場合、リフトを2mm下げます (リフトを一番下まで下げた状態) 。 なお、リフトを2mm下げなくても、 $\pm 2\text{mm}$ 程度の誤差であればほとんど音質に影響はありません。
 (4)また、ターンテーブルが高い場合は、ベース取り付け穴上面からレコード上面までの寸法で39mm (図②(A)参照) まで、10mmリフトアップして使用もできます。10mmリフトアップ出来ることで、高さの高いカートリッジやターンテーブル上に厚めのシートを敷くこともできます。
- 高さ調整ネジ2カ所 (ベースの横と後ろ) を緩め、アームを持ち上げ、水平確認をします。高さ調整ネジの位置はターンテーブルの反対側が使い勝手が良いようです。
- 高さが決まったら高さ調整ネジ2カ所を締めます。

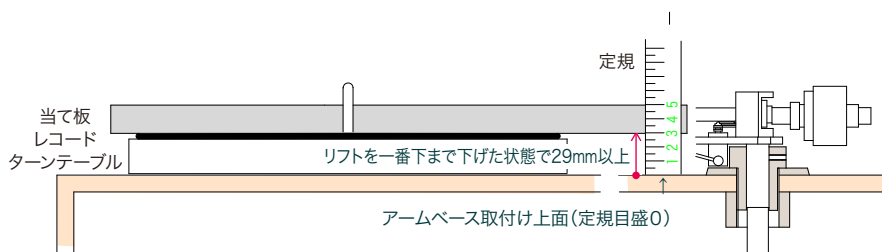
トーンアーム取付・寸法確認図



図①：設計値31 (2mmリフトアップ)



図②：アームの高さを10mmリフトアップした場合



*MH-12KATANAの取付けはSタイプ12吋と同様です。図のアームや記載はSタイプになっています。ご了承ください。

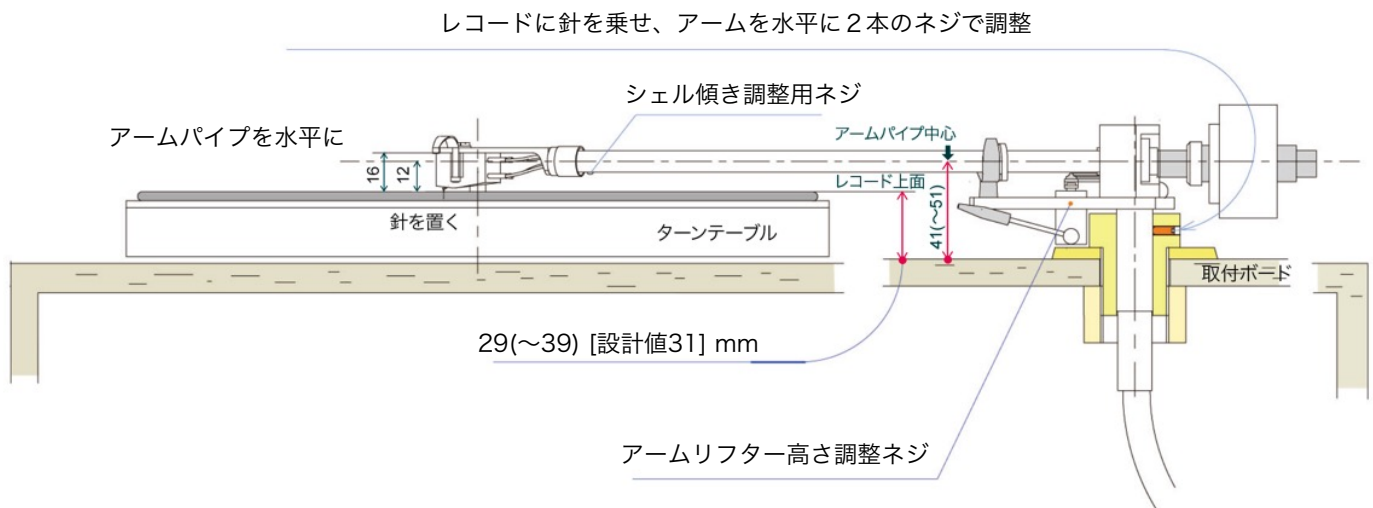
取付後の調整

アームを取付けましたら最後にアームの調整方法をご説明いたします。

1. プレーヤーの水平確認をします。プレーヤー全体が水平になっているか、プレーヤーの高さ調整用足ネジを回して調整します。
2. 出力コードを差し込みます。そしてトーンアームを仮付けしたらウェイトを回しながら取り付けます。
3. ヘッドシェルにカートリッジを取り付け、アーム先端に差し込み、ロックナットをゆっくり回して締めます。前方からカートリッジを見て、傾いていたらシェルを持って傾きを修正してください。固いようでしたら、アーム先端下側にあるシェル傾き調整ネジをほんの少し緩めて修正してみてください。
4. 調整時、IFCの作動によってアームが(レコード外周に)動いてしまうため、IFCを外してください(手で回ります)。
5. トーンアームの水平バランスは、針がレコード面とレスト受けの間の位置で調整をしますが、レコードに当たらないように注意してください。
6. アームレスト受けのロックを外し、ウェイトを回してアームパイプが水平になるようにバランスを取ります。
7. ウェイトの目盛だけを回して目盛値を0にしてください。次にウェイトを回してカートリッジの針圧値に合わせてください(約2gです)。
8. レコードをターンテーブルに置きます。
9. ヘッドシェルのフックをもってレコード盤の上に静かに置きますが、レコード面上に小さな紙を敷きその上に針先を置いてください。
10. アームパイプが水平になるように調整用の2本のネジを再度緩め、高さ調整をしてください(調整しやすい方のネジで調整し最後にもう片方のネジを止めてください)。
11. アームリフターのレバーを上げた状態で針先が5~10mm位浮いているように、アームリフター高さ調整ネジを緩めて調整します(レコードに傷を付けないよう細心の注意を払って作業してください)。
12. 最後に取り外したIFCを取り付けてください。レコードを実際に音を出して内周に行ったとき、針がトレースできずに内周に持っていかれるようでしたら、IFCウェイトのネジを緩めウェイトを支点より遠ざけ、針飛びしないレベルで止めてください。

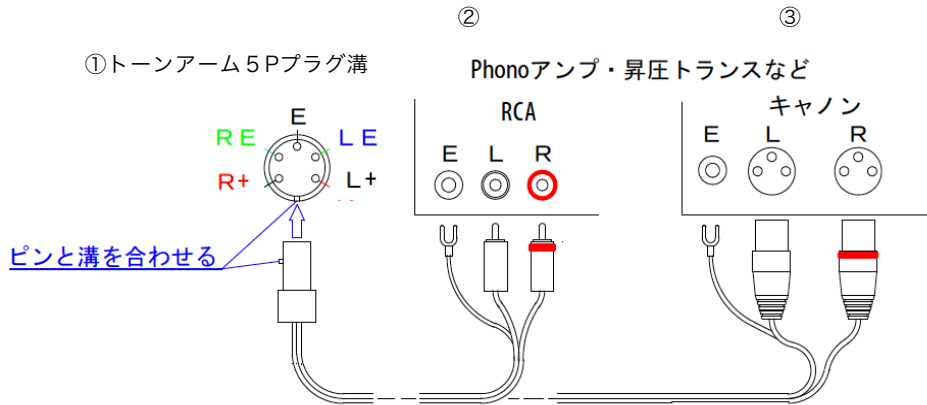
弊社のトーンアームはトレース感度が良いので、IFCは必要なければ外してお使いください。この構造物による歪み音がなくなります。

トーンアーム取付完了図



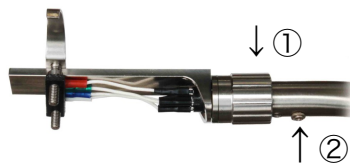
5 出力コードの接続

1. トーンアームの5Pプラグ溝に出力コードのピンを合わせ、しっかり押し込みます（下記①）。
2. ピンジャック（RCA）はPhono端子の付いたアンプに接続。そしてアース線をアース端子に接続（下記②）。
3. ボリュームを少し上げ「ブー音」が出たら接触不良です。カートリッジとヘッドシェルリード線、ヘッドシェルとトーンアームの接続点、トーンアームプラグと出力コードの接続点、出力コードとアンプの接続点を御確認下さい。特にアンプへのアース線を御確認下さい。アース線が接続されていないと「ブー音」が出ます。
4. カートリッジ巻線をボディーアースしてないMCカートリッジなどは、別売のコードでディファレンシャル（平衡）アンプなどに接続可能です。詳細はメーカーまでご連絡ください（下記③）。



6 ヘッドシェルの取付け

1. ヘッドシェルはアームパイプ先端の着脱ロックナットを緩めてヘッドシェルを取付けて下さい。
2. 前から見て傾いていたなら、着脱ロックナット（①）後ろの下側ネジ（②）を緩め、シェルの傾きを修正して、再びネジ（①）を締めて下さい。

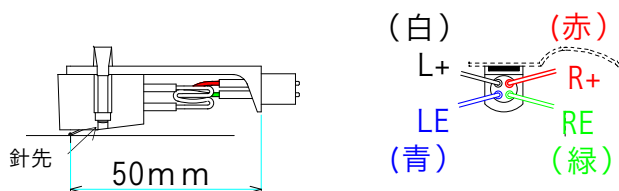


7 カートリッジの取付け

1. ヘッドシェルにカートリッジを取り付けてください。下の図のように針先から根元までが50mmになるようにフィンガーをM2.6のネジで締めます（±2～3mmの誤差は問題ありません）。

注意：このヘッドシェルはカートリッジからの漏れ振動をしっかりサポートする為、カートリッジ本体の心臓部により近い場所にヘッドシェルを固定したスリムな構造になっております。ネジ締めは必要以上に締め込まないでください。繊細なカートリッジが変形することがあります。

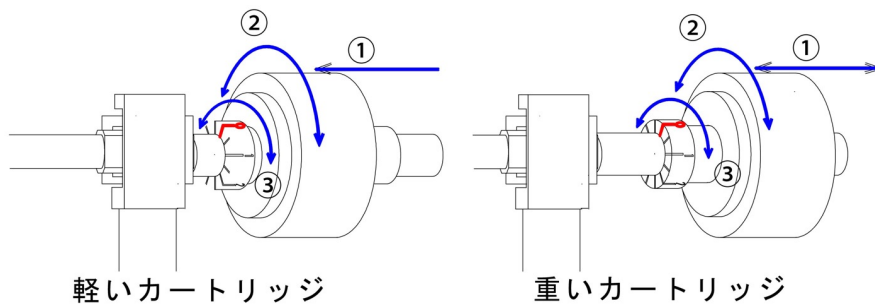
2. リード線の接続は、図のように接続してください。



8

針圧の調整

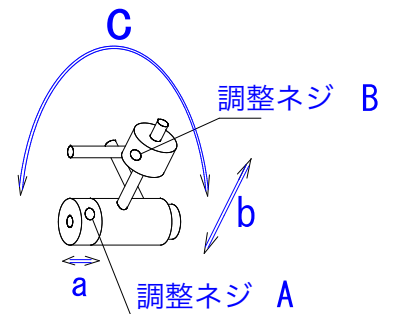
1. メインウェイトを目盛リングに寄せて下さい。
2. メインウェイトを回しアームが水平になるようにバランスをとって下さい。
3. メインウェイトが回らない様、目盛リングだけを回し、赤線（0）をカーソルに合わせて下さい。
4. メインウェイトを回し（②）カートリッジの規定針圧グラムに目盛をカーソルに合わせて下さい。（目盛の数字はgを表します。5gの場合は1周後（これで5g）さらに2まで回します）
5. 重いカートリッジでバランスが取れない場合はメインウェイトを①の方向（軸中心部から先端部）に少し動かし、再度②からやり直して下さい。



9

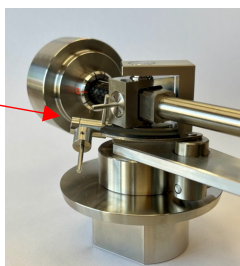
インサイドフォースキャンセラー（IFC）の調整

1. まずプレーアの水平を水準器で合わせて下さい。
2. インサイドフォースキャンセラー（IFC）は、ネジBをゆるめ、b方向に動かして調整します。（本来インサイドフォースキャンセラーは針圧に比例するもので、針先の形状とレコード盤への接触条件で変動するためツマミの数値はふってありません）
3. 内周に針飛びする場合はインサイドフォースキャンセラーを多くかけてください。調整後、ネジBを軽く締めてください。特に針飛びを起こさないようでしたら、インサイドフォースキャンセラーは外しても構いません。（よりいっそうクリアな音質をお楽しみいただけます）
4. 再びインサイドフォースキャンセラーを使用する際には、Φ2mmのネジ2本をしっかりとねじこみ、ウェイトの動きがC方向にスムーズに動くように、調整ネジAで、a方向に動かして固定してください。



注意：インサイドフォースキャンセラー（IFC）は非常に精密につくられています。設置時などにアームベースからアームを取り外し仮置きする際には、IFCに力が加わらないようご注意ください。力が加わりますと取付棒ネジが曲がる場合があります（下記②）。取付棒ネジが曲がるとIFCがスムーズに動かなくなり機能しなくなります。IFCはアッセンブル交換（有償）になりますので取り扱いには十分ご注意ください。

①力が加わり取付棒のネジが曲がりIFCが上に持ちあがる。



②取付棒のネジ分が曲がる。

③IFCは水平に取付けられこれが正常位置。

